

インド 壊滅的なブドウのシーズン

[FreshPlaza 2024年6月18日](#)

今年のインドの生食用ブドウ出荷シーズンは大きな期待を以て始まり、天候条件に恵まれたことから、予想では果実の入手のしやすさ、品質、出荷量、農薬の残留水準等で非常に明るい兆しを見せていた。インドの農産物輸出業者ジャンキ・フレッシュヤード社のサガール・デオレ氏は、しかし「今シーズンがインドのブドウ輸出の歴史の中で最も困難な部類であることが判明したため、これらの希望は長くは続かなかった」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

紅海危機と輸送の遅延

今年のブドウの出荷シーズンには多くの側面が影響を与えたが、最も深刻だったのは紅海危機とそれに伴うヨーロッパ向けの輸送時間の延長であったとデオレ氏は強調する。「紅海危機がエスカレートし始めるとすぐに、すべての船会社はヨーロッパ行きに船に喜望峰経由の航路をとらせた。ムンバイ(インド)のナバシェバ港からヨーロッパの主要港まで、スエズ運河経由で通常19～22日という輸送日数は、38日から最大60日にまで増加した。船会社は出荷前には輸送時間を30～35日と伝えたが、大部分の船はさらに10～25日以上遅れて到着した。このような輸送時間の増加は、到着時の果実の状態に影響を与えた。また、予定された出荷計画、配送、販売にも大きなマイナスの影響を与えた。」

海上輸送費の急激な増加

デオレ氏は、すでに農産物を海外に送る義務を負っている段階で、輸送コストが突然2倍以上に跳ね上がったことに果実輸出業者らは驚いたと述べている。「1月にブドウの出荷シーズンが始まった時、ヨーロッパの主要港向けの冷蔵コンテナの運賃は約1,400～1,800米ドルと見込まれていたが、1月末までに予想外に4,400～4,800米ドルに上昇した。出荷業者と輸出業者は、すでに約束した販売計画があり配送義務を負っていたため、無理にでも受け入れるしかなかった。この250%の追加輸送コストの突然の発生は、輸出業者に大きな負担となった。」

果実価格の上昇

物流上の問題が起こらなければ、今シーズンは素晴らしいものになっていたかも知れないとデオレ氏は言う。「ブドウは、大きさ、形、色、食味、出荷量の点で良好である。出荷の最盛期は2月から3月と見込まれ、シーズンの終盤には品薄になると予想されていた。そのため、すべての梱包出荷業者は2月から3月上旬までに義務を果たそうと急いだ。その結果、梱包する果実の需要が高まり、また、すべての梱包業者は延長された輸送時間に耐えられるより高品質な果実のみを梱包することを優先した。このこと自体が、出荷可能な果樹園から最高品質の果実を購入するための梱包業者間の競争の激化につながった。継続的な需要の増加は、果実の価格上昇をもたらした。」

着荷時の果実の状態は様々

今シーズンは、より長い輸送時間に耐えられるよう果実の梱包に最善の努力を払ったにもかかわらず、インドの梱包業者と輸出業者の一部は、目的地に到着したブドウの品質の問題に対処する必要があったとデオレ氏は説明する。「これは主に、これまでになかった長い輸送時間が果実の品質と棚持ちに大きな影響を与えたためである。要求される品質パラメータによく適合した品質の高い果実は、直ちに販売された。しかし、影響を受けた果実は再検査と再梱包に送らなければならない、ヨーロッパなどでは人件費が高く、出荷業者と輸出業者にさらなる負担となった。また、予定どおりに到着した荷の販売や、配送と収益確保の約束を守る上でも大きな圧力となった。」

サプライチェーンの破綻

今シーズン、船の運航自体ですでに輸送時間が長くなっていたが、積み替え港の混雑により、さらに遅延が発生したとデオレ氏は言う。「2隻の船がほぼ1週間遅れ、それと同時に2つの異なるスケジュールの2隻の船がこれらの遅れた船と同じ週に到着した。この状況は、市場に非常に混乱した状況を生み出した。予定していた船が来なかったため、市場に果実がほとんどなく予定どおりの配送ができない週があった。その翌週には、2倍の船が入港して入荷量が2倍になり、サプライチェーンに影響を与え、市場価格が大幅に下落した。」

極めて不安定な市場と過小評価された価格設定

「船会社からは船のスケジュールに関する保証がなく、予定どおりに到着する貨物はなかった。予測不可能なサプライチェーンのために、すべての予想と計画は無駄であった。船舶が定時に到着しないこと、着荷時の果実の品質、果実貯蔵庫の限られた収容能力、予想よりも多い出荷数量、インドの現地での出荷データの取得の難しさなど、これらすべての要因が市場を不安定で予測不可能なものにし、最終的に販売価格に高い圧力をかけた。」

今後しばらくの間、この壊滅的なブドウシーズンの痛みを感じるだろう。「一部の出荷業者と輸出業者は、果実を出荷する前にコストがすでに決定されたり支払われたりしているため、今シーズンは財政的に苦しんでいる。上記のすべての困難な側面により、それらの業者は今年はコストを回収できなかった。最高品質の果実を選び、慎重に梱包し、輸送費を250%以上多く払い、最良の物流業者の船に積み込み、あらゆる手段を講じるという最善の努力にもかかわらず、輸出業者は大きな負債、大きな責任、そして困難な将来を背負うことになった。これらは彼ら自身の過失ではなく、船会社に翻弄されている。」

執筆者: ニック・ピーターズ